

第 16 回高知市街路市活性化推進委員会 議事録（概要）

日 時：令和 6 年 11 月 5 日（火）13：00～15：00

場 所：高知市役所本庁舎 6 階 601 会議室

出席委員：廣末委員長，浅田委員，今西委員，小田委員，加藤委員，楠瀬委員，寺尾委員，
畠中委員，平井委員，福田委員，藤本委員

事務局：高知市商業振興・外商支援課

議題①：「街路市利用者との座談会」の報告について

議題②：各種調査等の進捗報告について

議題③：高知市街路市活性化構想 41 事業の総括について

議題④：次期街路市活性化構想（素案）の意見交換について

1. 議題①「街路市利用者との座談会」の報告について，②各種調査等の進捗報告について，③高知市街路市活性化構想 41 事業の総括について

- ・座談会の参加者から継続開催を求める声が届いている。特に若手利用者から「出店者との交流が有意義だった」「自分たちが街路市の活性化のために何かできることがないかを考えたい」との意見が寄せられた。県立大学の先生からは学生のフィールドワークとしての活用提案もあり，継続的な意見交換の場の必要性を感じている。（委員）
- ・県では産業振興計画を進めている。先週会があり，出席者からご意見があった。日曜市は集客も多いので，チャレンジショップのようなものはマーケティングの観点からも出店できれば，店の選択肢の幅も広がるのではないかと思う。（委員）
- ・観光客の増加を実感しているが調査の結果，来市者の 7 割が県外客であることが確認された。自身の店舗では苗販売がメインだが，観光客対象であれば食べ歩き商品や県の特産品が売れやすいと思う。街路市が「生活市」であることを考えれば販売物とお客さんのニーズにはギャップがある。（出店している委員）
- ・コロナ以降から比べると人は多くなったと実感しているが，売り上げには繋がっていない。人通りが多いことは良いと思っている。日曜市の朝市化については，17 年ぐらい出店しているがここ 10 年ぐらいでそれが顕著になっている。午後はお客さんより出店者の方が多くなる，という話を隣近所の店舗で話すことがある。（出店している委員）

- ・日曜日ほか街路市全般で仕舞いが早いという事が顕著になっている。14時には店じまいをはじめたり閉まっている店が多い。終日市ということになっているが、午後はお客さんが満足できるような状態ではない。
お客さんも13時を過ぎると減り、出店者も閉店、品物もない。この現状では、午後に来たお客さんは「イメージと違った」と感じる事だろう。（出店している委員）
- ・ここ10年でどんどん出店時間が短縮されている。自分の施設では、街路市への午後の訪問は推奨していない。行くなら朝8時～昼まで。もし日曜市を観光市とするならば、観光客のニーズが高い宅配サービスの強化が必須。（委員）
- ・私達は終日市という認識ではあるが、次の計画の中でどのようにするか。ただし終日市とし続けるのであれば、それなりの対応が必要。（委員長）
- ・地域の方との結びつきがなければ、持続的にやっていくのは難しい。
地域の小学校や大学などの話は出たが、高校生は無いのか？各高校では体験学習や商品開発などを積極的に実施していて学びの場は広がっている。高校生の商品開発したものを、街路市で出店販売するなどを活かさないのか？（委員）
- ・現在も高知商業高校などがジビエ商品などの販売に取り組んでいるが、今後どのように展開していくかが課題。（委員長）

2. 議題④ 次期街路市活性化構想（素案）の意見交換について

- ・10年前から比べると高知市中心部は人口が増えている。来市者の7割が観光客という調査結果を見ると、街路市の地元利用者からしたらその恩恵を感じにくいのでは。
朝市化が進む事で、観光客の街路市への動きが「朝行って昼には帰る」という風に固定化せざるを得なくなっている。観光客は10年前と何が違うか。Google Mapを活用している人が多く、地元客の口コミや情報を参考に行先を決めている。観光客は地元の人が行って盛り上がっている所に行きたいと思って動いていると思う。街路市も観光客に寄せすぎると魅力が無くなっていくのではないか。あまり観光客にばかり軸足を置き過ぎるのは心配。（委員）
- ・高知市中心部の人口が増えているので、地元の人には街路市にもっと来て欲しい。そこから観光客に繋がれば良い。（委員）
- ・全国的な人口減少問題に対応するためにも足元を固める必要がある。外部からの移住希

望者を受け入れ、高知の人口増を図るという考え方もある。

能登の方では、観光客に寄せていたせいか地元ボランティアが少なく復興がままならない面があると聞く。事業継続計画的な視点でも地元利用者の確保は重要。

高知らしい市づくりが大切。（委員）

- ・移住者や地域おこし協力隊などがチャレンジショップで商売してみる、なども試してみれば街路市にも移住者向けにも展開が広がると思う。（委員長）
- ・街路市は観光客ではなく、原則は地元というのは確かにそう思う。今まではお客さまに自由に街路市を見て頂く形だったが、資料を見ていると観光客や就学前児童などを対象にした同行ガイドをやってみるのも良いと感じた。（委員）
- ・市としてはそのようなガイドはやっていないのか？（委員長）
⇒移住体験ツアーの中には必ず日曜市が入っていて、一緒に歩きながら店先で商品の説明などを行っている。（事務局）
- ・街路市の取材の中で、街路市専用テントの展開や可能性を考えてみた。
取材時にいろんな出店者に話を聞いてみたが、やはりテントを持ち込んでの設置撤去などの設営が大きな負担となっている。
テントボックスのような構造物を道路の中央分離帯に設けることで出店者の負担軽減やテントが隙間なく建つ景観維持が期待でき、休憩所や観光体験としても活用できると考える。
また、午前・午後で出店者を分ける「バトンタッチ出店」や、終日市ではあるが、アフタヌーンマーケットといった新たな機軸でやってみてはどうだろうか。
- ・高知商業高校の生徒さんが、街路市終了後にゴミを拾っている場に居合わせたのが、普通の服で活動をしていたので、一見わからなかった。ボランティアである事が分かるようなユニフォームがあると、対外的なアピールができるし、観光客などから感謝の声をかけやすいと思う。（委員）
- ・日曜市の午後遅い時間に行くと店がほとんどないのに交通規制だけがされているのは如何か。何時まで交通制限を実施しているのか？（委員）
⇒冬場は16時、夏場は17時までを交通規制時間としている。（事務局）
- ・加工品販売が増えているが、世界的な温暖化で高温が長引く傾向にあり食品衛生面での商品管理が心配。実際に自分が購入した商品が腐っていた事もあった。（委員）
- ・火曜日、金曜日は出店のハードルが高く、特に火曜市の水路に板を渡すスタイルは大変

かと思う。地域にスーパーはなくなったが火曜市に人が増える動きがない。（委員）

- ・火曜市については板を渡す労力もあるが、そもそも地域自体（上町地区）の人口が減少している事が大きい。（委員）

- ・日曜市の開催エリアは県道か市道か？（委員長）
⇒日曜市の道路は市道であり中央分離帯はみどり課が管轄している。（事務局）

- ・店と店の間に空間が目立つという指摘もあったが、これを解消するという方向・手法などはあるか？（委員）
⇒空きコマとなっている場所は、出店登録し出店料は払っているがお休みしている店舗もあり、これを勝手に触ることは難しい状況。全体の出店者が増えれば自然と空きが埋まっていくと考えている。（事務局）

- ・次回の委員会は12月上旬を予定している。改めてお知らせするので参加をお願いしたい。（事務局）